

<保健医療学域>

## 目 次

母性看護学・助産学 .....	3
小児保健看護学 .....	3
がん看護・緩和ケア .....	4
精神保健看護学 .....	5
国際地域ケア .....	6
地域健康学 .....	8
環境看護学 .....	8
リハビリテーション看護学・慢性看護学 .....	9
高齢者看護学 .....	9
臨床心理学 .....	9
ヘルスサービスリサーチ .....	10
国際看護学 .....	11
臨床試験・臨床疫学 .....	12
社会精神保健学 .....	13
法医学 .....	14
福祉医療学・国際社会医学 .....	16
保健医療政策学・医療経済学 .....	17

## 母性看護学・助産学

### 1) 英文論文

1. Emori Y, Amagai S, Koizumi H, Murai F, Kawano A, Sannkai C. Relationship of socioeconomic status with psychological state and the number of weeks of pregnancy at the time of a first prenatal examination among perinatal women. *General Medicine* 15(1):34-42, 2014

### 2) 英文以外の論文

1. 天貝静, 江守陽子, 村井文江, 小泉仁子. 妊娠女性の社会経済的地位と抑うつおよび人生満足度との関係. 母性衛生 55(2):387-395, 2014
2. 岡本佐智子, 渋谷えり子, 江守陽子. 主観的に「心地よい」と感じるハンドマッサージのリラクセーション効果の検証. Health Science 30(2):67-74, 2014
3. 村井文江, 江守陽子. 小学校3年生の保護者がとらえる"性教育"と"家庭における性教育の取り組み"に関する質的分析 思春期の子どもを持つ家庭における性教育の支援の検討に向けて. 思春期学 32(1):176-187, 2014

## 小児保健看護学

### 1) 英文論文

1. Fujioka H, Wakimizu R, Okubo Y, Yoneyama A. Empowerment of families rearing children with severe motor and intellectual disabilities at home. *Medical and Health Science Research* 5:41-53, 2014
2. Wakimizu R, Fujioka H, Ieshima A, Miyamoto S. Effectiveness of the group-based Positive Parenting Program with Japanese families raising a child with developmental disabilities: A longitudinal study. *J Psychol Abnorm Child* 3:113, 2014
3. Wakimizu R, Nishigaki K, Fujioka H, Maehara K, Kuroki H, Saito T, Uduki K. Factors affecting Japanese HPV-vaccination: findings from the semi-structured interviews with adolescent girls and caregivers. *Health* 6:1602-1615, 2014
4. Wakimizu R, Nishigaki K, Fujioka H, Maehara K, Kuroki H, Saito T, Uduki K. How adolescent Japanese girls arrive at human papilloma virus vaccination: A semistructured interview study. *Nurs Health Sci* doi: 10.1111/nhs.12123, 2014

### 2) 英文以外の論文

1. 安藤満代, 家村明子, 中村理恵子, 渋田雄飛, 涌水理恵. 発達相談を受けた親の養育スタイルと児の問題行動・親の精神的健康・家族エンパワメントとの関連. インターナショナル

Nursing Care Research 13(4):35-43, 2014

2. 西垣佳織, 涌水理恵, 黒木春郎, 前原幸治, 斎藤匡, 藤岡寛, 卯月勝弥. 母親が娘の子宮頸がん予防ワクチン接種を検討する際の阻害/促進要因に関する質的研究. 外来小児科 17(1):10-17, 2014
3. 藤岡寛, 涌水理恵, 大久保嘉子, 米山明. 在宅で重症心身障害児を療育する家族のエンパワメントプロセス (Empowerment of families rearing children with severe motor and intellectual disabilities at home) . 医療保健学研究 5):41-53, 2014
4. 藤岡寛, 涌水理恵, 佐藤奈保, 西垣佳織, 沼口知恵子, 岸野美由紀, 小沢浩, 岩崎信明. 在宅重症心身障害児の家族エンパワメント 父親が担う役割. 日本重症心身障害学会誌 39(2):225, 2014
5. 藤岡寛, 涌水理恵, 山口慶子, 佐藤奈保, 西垣佳織, 沼口知恵子. 在宅で重症心身障がい児を養育する家族の生活実態に関する文献検討. 小児保健研究 73(4):599-607, 2014
6. 涌水理恵. 【麻酔を受ける子どもの看護】 研究・調査・実践レポート オリエンテーションビデオを用いた家庭でのプレパレーションが麻酔を受ける幼児と保護者に与えた効果ランダム化比較試験による検討. 小児看護 37(11):1422-1429, 2014

## がん看護・緩和ケア

### 1) 英文論文

1. Maeda I, Tsuneto S, Miyashita M, Morita T, Umeda M, Motoyama M, Kosako F, Hama Y, Kizawa Y, Sasahara T, Eguchi K. Progressive development and enhancement of palliative care services in Japan: nationwide surveys of designated cancer care hospitals for three consecutive years. *J Pain Symptom Manage* 48(3):364-373, 2014
2. Muta R, Sanjo M, Miyashita M, Wakabayashi R, Ando E, Morita T, Tsuneto S, Shima Y. What bereavement follow-up does family members request in Japanese palliative care units? A qualitative study. *Am J Hosp Palliat Care* 31(5):485-494, 2014
3. Nakazawa Y, Kizawa Y, Hashizume T, Morita T, Sasahara T, Miyashita M. One-year follow-up of an educational intervention for palliative care consultation teams. *Jpn J Clin Oncol* 44(2):172-179, 2014

### 2) 英文以外の論文

1. 飯塚麻紀, 水野道代. 日本語版 Managing Uncertainty in Illness Scale-Family Member Form (病気に関する不確かさ尺度—家族用) の信頼性および妥当性の検討. 日本看護科学学会誌 34(1):245-254, 2014

#### 4) 英文以外の著書

1. 梅田恵, 細矢美紀, 新幡智子, 風間郁子, 林ゑり子, 廣岡佳代. □章. 3. がん疼痛における患者教育; "がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014 年版" (編集 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン委員会), 金原出版(東京) 2014; pp212-219

## 精神保健看護学

#### 1) 英文論文

1. Omori Y, Mori C, White AH. Self-stigma in schizophrenia: A concept analysis. *Nursing Forum* 49(4):259-266, 2014

#### 2) 英文以外の論文

1. 佐藤百合, 三木明子. 病院看護師における仕事のストレス要因、コーピング特性、社会的支援がワーク・エンゲイジメントに及ぼす影響 経験年数別の比較. 労働科学 90(1):14-25, 2014
2. 坂口舞, 三木明子. 11 病院看護師のパワーハラスマントの被害経験が外傷性ストレス反応に及ぼす影響. 労働科学 90(1):1-13, 2014
3. 三木明子, 濱崎美恵子, 成嶋のり子. セルフケア向上を目指した取り組みを通しての統合失調症患者の変化. 日本看護学会論文集: 精神看護 44:161-164, 2014
4. 森千鶴. 学生が育つ!実習の準備・サポート・記録指導の進め方 実習前に教員が準備しておくこと. 看護人材育成 11(1):90-94, 2014
5. 森千鶴. 学生が育つ!実習の準備・サポート・記録指導の進め方(第2回) 学生のサポート方法を考える. 看護人材育成 11(2):116-119, 2014
6. 森千鶴. 学生が育つ!実習の準備・サポート・記録指導の進め方(第3回)(最終回) 看護学実習記録で思考を育てる. 看護人材育成 11(3):132-135, 2014
7. 成嶋のり子, 濱崎美恵子, 三木明子, 前田和子. 長期入院患者に対する看護職員のかかわりの変化 統合失調症患者のセルフケア向上のための取り組みを通して. 日本精神科看護学術集会誌 57(2):307-311, 2014
8. 綿引文男, 坂場静代, 菊地生美, 磯辺智則, 三木明子. 児童・思春期病棟退院後に親が困ることおよび望む支援 病棟看護師が親へのインタビューを行って. 日本精神科看護学術集会誌 57(2):141-145, 2014

#### 4) 英文以外の著書

1. 岡田佳詠. 第2部 第1章. うつ病の認知行動療法; "看護のための認知行動療法 (編集 白石裕子), 金剛出版(東京) 2014; pp78-103
2. 三木明子. 第8章. せん妄ケアで安全を確認するために 暴力から身を守る; "せん妄のスタ

ンダードケア Q&A100 (第1版)"(編集 酒井郁子, 渡邊博幸), 南江堂(東京)2014; pp92-93

## 国際地域ケア

### 1) 英文論文

1. Anme T, Tanaka E, Tokutake K, Watanabe T, Tomisaki E, Mochizuki Y, Wu B, Shinohara R, Sugisawa Y, Okazaki S, Sadato N. Assessing gender differences in sociability towards strangers over time using the Interaction Rating Scale Advanced (IRSA). *International Journal of Applied Psychology* 4(2):50-56, 2014
2. Anme T, Tanaka E, Sugisawa Y, Matsumoto M, Watanabe T, Tomisaki E, Tokutake K, Miyazaki K, Edamoto S. Validating the effects of inclusive childcare with the interaction rating scale. *Education* 4(2):35-40, 2014
3. Anme T, Tokutake K, Tanaka E, Watanabe T, Tomisaki E, Mochizuki Y, Wu B, Shinohara R, Sugisawa Y, Okazaki S, Sadato N. Validity and reliability of the Interaction Rating Scale Advanced (IRSA) as an index of social competence development. *Public Health Research* 4(1):25-30, 2014
4. Kawamichi H, Yoshihara K, Sasaki AT, Sugawara SK, Tanabe HC, Shinohara R, Sugisawa Y, Tokutake K, Mochizuki Y, Anme T, Sadato N. Perceiving active listening activates the reward system and improves the impression of relevant experiences. *Soc Neurosci* doi: 10.1080/17470919.2014.954732, 2014
5. Miura A, Fujiwara T, Osawa M, Anme T. Inverse correlation of parental oxytocin levels with autonomy support in toddlers. *Journal of Child and Family Studies* 2014
6. Watanabe T, Ito S, Okumura R, Tanaka E, Tomisaki E, Tokutake K, Wu B, Mochizuki Y, Arioka S, Anme T. The reliability and validity of the adolescent subjective well-being scale in Japan. *International Journal of Psychology and Behavioral Sciences* 4(3):87-91, 2014
7. Wu B, Tanaka E, Tokutake K, Watanabe T, Mochizuki Y, Tong L, Shinohara R, Sugisawa Y, Sawada Y, Ito S, Okumura R, Anme T. Continuity of social interaction and functional status: A nine-year population-based prospective study for the elderly. *Public Health Research* 4(3):79-84, 2014

### 2) 英文以外の論文

1. 安梅勅江. 生涯発達エンパワメントとあそび. 生存科学 25(1):25-33, 2014
2. 徳竹健太郎, 篠原亮次, 杉澤悠圭, 田中笑子, 富崎悦子, 渡辺多恵子, 望月由妃子, 吳柏良, 難波麻由美, 安梅勅江. 行動観察による社会能力評価「かかわり指標(成人用)実践版」の臨床的妥当性に関する研究. 厚生の指標 61(7):8-13, 2014
3. 松本美佐子, 田中笑子, 篠原亮次, 渡辺多恵子, 富崎悦子, 望月由妃子, 杉澤悠圭, 酒井初恵, 安梅勅江. 5歳時の社会能力を予測する3歳時の気になる行動に関する縦断研究. 日本保健福

祉学会誌 20(2):3-13, 2014

4. 望月由妃子, 田中笑子, 篠原亮次, 杉澤悠圭, 富崎悦子, 渡辺多恵子, 徳竹健太郎, 松本美佐子, 杉田千尋, 安梅勅江. 養育者の育児不安及び育児環境と虐待との関連-保育園における研究. 日本公衆衛生雑誌 61(6):263-274, 2014

#### 4) 英文以外の著書

1. 安梅勅江. まえがき, 第 1~4 章, 終章. まえがき, 第 1 章 命の輝きに寄り添うエンパワメント, 第 2 章 エンパワメントの本質, 第 3 章 エンパワメント環境づくり, 第 4 章 エンパワメント実現に向けた設計技術, 終章 共生共感エンパワメントに向けて; "いのちの輝きに寄り添うエンパワメント科学-誰もが主人公 新しい共生のかたち-(第 1 版)" (編集 高山忠雄), 北大路書房 (京都) 2014; pp2-25、118-119
2. 安梅勅江. 第 14 章. 相談援助のための交渉の技術; "相談援助の理論と方法□相談援助のための交渉の技術 (第 3 版)" (編集 社会福祉士養成講座編集委員会), 中央法規 (東京) 2014; pp296-315
3. 安梅勅江. 第 3 章 第 4 節、第 6 節. 障害児のための福祉サービス, 母子保健サービス; "社会福祉学習双書 (第 6 版)" (編集 社会福祉学習双書編集委員会), 社会福祉法人 全国社会福祉行儀会 (東京) 2014; pp92-104、112-120
4. 安梅勅江. 第 1 章, 第 6 章. 子育ち, 子育てエンパワメントへの根拠に基づく支援の意義と方法, 子育ち, 子育て支援プロの質を高めるために; "保育パワーアップ講座活用編 (第 5 版)" (編集 安梅勅江/保育パワーアップ研究会), 日本小児医事出版社 (東京) 2014; pp5-17,117
5. 安梅勅江. 第 1 章 1~3 節, 第 5 章. プロとしての根拠に基づく実践とは, 根拠に基づく実践のポイント, 根拠と評価, 根拠に基づく実践の意義と効果, 根拠に基づく実践を展開するために; "保育パワーアップ講座基礎編 (第 4 版)" (編集 安梅勅江/保育パワーアップ研究会), 日本小児医事出版社 (東京) 2014; pp5-8,10,65-68
6. 安梅勅江. 第 1 章 1~3 節, 第 5 章. 根拠に基づく支援の基本, 根拠に基づく支援の設計法: エンパワメント支援設計の作り方, 根拠に基づく支援ツールの活用法, 子育ち, 子育て支援プロの質を高めるために; "保育パワーアップ講座応用編 (第 1 版)" (編集 安梅勅江/保育パワーアップ研究会), 日本小児医事出版社 (東京) 2014; pp5-25,137
7. 田中笑子, 渡辺多恵子, 恩田陽子. 第 1 章 3 節. 根拠に基づく支援ツールの活用法; "保育パワーアップ講座活用編 (第 5 版)" (編集 安梅勅江/保育パワーアップ研究会), 日本小児医事出版社 (東京) 2014; pp9-17
8. 望月由妃子. 第 3 章 2 節. こどもへの虐待が疑われる保護者の事例; "保育パワーアップ講座応用編 (第 1 版)" (編集 安梅勅江/保育パワーアップ研究会), 日本小児医事出版社 (東京) 2014; pp71-78
9. 田中笑子, 富崎悦子. 資料編. 資料編; "保育パワーアップ講座応用編 (第 1 版)" (編集 安梅勅江/保育パワーアップ研究会), 日本小児医事出版社 (東京) 2014; pp138-189

## 地域健康学

### 1) 英文論文

1. Sano F, Ohira T, Kitamura A, Imano H, Cui R, Kiyama M, Okada T, Yamagishi K, Sankai T, Tanigawa T, Kario K, Iso H. Heavy alcohol consumption and risk of atrial fibrillation. The Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS). *Circ J* 78(4):955-961, 2014
2. Takata Y, Kondo T, Sakata Y. Factors related to Psychosomatic Complaints and Self-Esteem among Japanese junior High school Students. *International Journal of Behavioral Medicine* 21(Supplement 1):s24, 2014

### 4) 英文以外の著書

1. 高田ゆり子. 第2章. 看護職のためのカウンセリング; "生涯発達の中のカウンセリング□～看護現場でいきるカウンセリング～(第1版)" (編集 小玉正博, 松井豊), サイエンス社(東京) 2014; pp21-37

## 環境看護学

### 2) 英文以外の論文

1. 川口孝泰. 【授業研究のすすめ】 看護教育の初めの一歩は自分の授業研究から. 看護教育 55(1):6-10, 2014
2. 北原有唯, 佐藤政枝, 川口孝泰. 起立動作時の「声かけ」と「足踏み」による事前準備の効果. 日本看護研究学会雑誌 37(3):122, 2014
3. 丸山剛, 江口清, 石川公久, 丸島愛樹, 上野友之, 川口孝泰, 鶴嶋英夫, 谷澤伸次, 高梨典子, 卯野木健, 荒木大地, 吉岡友和, 中井啓, 酒巻真由子, 伊藤由美子, 池田一郎, 河上日出生, 松村明. 車いす一体型ベッドによる離床支援の試み. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 51(Suppl.):S449, 2014

### 4) 英文以外の著書

1. 石井トク, 江守陽子, 川口孝泰. ステップ2-2、ステップ4. 看護者の倫理要、項目看護研究に必要な看護倫理; "看護倫理(第1版)" (編集 石井トク, 江守陽子, 川口孝泰), 学研メディカル(東京) 2014; pp56-76、150-157
2. 熊坂隆行, 升秀夫, 他. 基礎としての環境看護学; "代替療法と研究分析方法(第1版)" (編集 熊坂隆行, 升秀夫), 世論時報社(東京) 2014; pp185-202

## リハビリテーション看護学・慢性看護学

### 1) 英文論文

1. Takai Y, Yamamoto-Mitani N, Abe Y, Suzuki M. Literature review of pain management for people with chronic pain. *Jpn J Nurs Sci* doi: 10.1111/jjns.12065, 2014
2. Takai Y, Yamamoto-Mitani N, Kawakami S, Abe Y, Kamiyama M, Saito S. Differences between nurses' and care workers' estimations of pain prevalence among older residents. *Pain Manag Nurs* doi:10.1016/j.pmn.2014.03.005, 2014

### 2) 英文以外の論文

1. 本庄恵子, 三浦英恵, 下村裕子, 和田美也子, 丹羽淳子, 仁昌寺貴子, 住谷ゆかり, 餘目千史, 山本伊都子. 東日本大震災をめぐる脳梗塞をもつ人の体験とその支援-新聞記事の分析を通して-. 日本保健医療行動科学会雑誌 29(1):73-77, 2014
2. 横山悦子. コンコーダンス-慢性病をもつ人のコンコーダンス-. 日本保健医療行動科学会雑誌 29(1):115-118, 2014

## 高齢者看護学

### 1) 英文論文

1. Okamoto N, Matsuda H. Awareness and related of hand hygiene among nurses working in elderly - care facilities. *Journal of Gerontological Nursing and Caring Research* 4(2):1-10, 2014

### 2) 英文以外の論文

1. 荒木章裕, 松田ひとみ, 岡本紀子. 高齢者の「自発的かけ声」の日常的な活用と影響に関する実態. 高齢者ケアリング学研究会誌 4(2):22-32, 2014
2. 岡本紀子, 荒木章裕, 松田ひとみ. 地域の体操教室への参加が高齢者の生活リズムの調整に及ぼす効果. 高齢者ケアリング学研究会誌 5(1):1-10, 2014

## 臨床心理学

### 1) 英文論文

1. Tokuda K. Child-rearing of nursery teachers II. *The Asian Society of Child Care* 5:29-34, 2014
2. Mizuno T, Nishimura M, Ajimi A, Nishidate A, Okoshi K, Tokuda K. Research related to the nursery teachers'diet instruction for autistic children with extreme picky eating. *The Asian Society of Child*

*Care* 5:1-10, 2014

3. Tokuda K, Mizuno T. Characteristic of tactile ground surface indicators setup in central America and south America. *The Asian Journal of Disable Sociology* 14:1-13, 2014
4. Nishidate A, Tokuda K. Elementary and junior high school students' attitudes toward the characteristics of developmental disability and their developmental changes. *The Asian Journal of Disable Sociology* 14:37-48, 2014
5. Mizuno T, Okoshi K. Discussion on how to utilize picture cards effectively in childcare scene : Base on the examples of mistakes in composing and using picture cards. *The Asian Journal of Disable Sociology* 14:57-64, 2014

## 2) 英文以外の論文

1. 西館有沙, 徳田克己. 中学校における発達障害理解を促す授業の実践 –自閉症スペクトラムにみられる「コミュニケーション上の困難」を知る取り組み-. 障害理解研究 15:49-56, 2014
2. 水野智美, 徳田克己. 身体障害、発達障害の理解教育の段階モデルの提案. 障害理解研究 15:1-8, 2014

## 4) 英文以外の著書

1. 水野智美. 15、16、17. 発達障害の子どもにかかわる際の大原則、発達障害がある子どもが日常生活に問題を抱える理由と支援のコツ、子どもの困った行動にどう対応したらよいか; "うちの子、ちょっとへン? 発達障害・気になる子どもを上手に育てる 17 章(第 1 版)" (編集 水野智美, 監修 徳田克己) , 福村出版(東京) 2014; pp68-153
2. 徳田克己, 水野智美. 1、3、6. 発達障害の傾向のある保護者、精神疾患のある保護者、離婚協議中、ひとり親家庭の保護者; "知らないとトラブルになる! 配慮の必要な保護者への支援(第 1 版)" (編集 徳田克己), 学研(東京) 2014; pp16-25、58-67、96-105
3. 水野智美. 1-1、1-2、2. 気になる子どもに見られる偏食の特徴と指導の大原則、気になる子どもの偏食の原因と対応、偏食への対応の具体的方法; "具体的な対応がわかる 気になる子どもの偏食(第 1 版)" (編集 水野智美, 監修 徳田克己), チャイルド本社(東京) 2014; pp8-11、12-18、24-46

## ヘルスサービスリサーチ

### 1) 英文論文

1. Kashiwagi M, Tamiya N, Murata M. Characteristics of visiting nurse agencies with high home death rates: A prefecture-wide study in Japan. *Geriatrics & Gerontology International* doi:

10.1111/ggi.12372, 2014

2. Moges A, Tamiya N, Yamamoto H. Emerging population ageing challenges in Africa: A case of ethiopia. *Journal of International Health* 29(1): 11-15, 2014
3. Moriyama Y, Tamiya N, Kamimura A, Sandoval F, Luptak M. Doctors' opinion papers in long-term care need certification in Japan: Comparison between clinic and advanced treatment hospital settings. *Public Policy and Administration Research* 4(9):31-37, 2014
4. Tokunaga M, Hashimoto H, Tamiya N. A gap in formal long-term care use related to characteristics of caregivers and households, under the public universal system in Japan: 2001-2010. *Health Policy* doi: 10.1016/j.healthpol.2014.10.015, 2014
5. Yamaoka Y, Tamiya N, Fujiwara T, Yamasaki Y, Matsuzawa A, Miyaishi S. Child deaths with persistent neglected experiences from medico-legal documents in Japan. *Pediatr Int* doi: 10.1111/ped.12531, 2014

## 2) 英文以外の論文

1. 宮下裕美子, 田宮菜奈子, 本澤巳代子, 間辺利江, 柏木志保, モゲス・アブ・ギルマ, 大久保一郎, 田中洋子, 松田ひとみ. 筑波大学グローバルエイジングセンターの活動 地球規模の高齢社会に向けた国際的・学際的取り組み. 高齢者ケアリング学研究会誌 4(2):33-39, 2014

## 4) 英文以外の著書

1. 森山葉子, 田宮菜奈子. 高齢者医療・介護（ケア）；"社会調査事典(第1版)"（編集 一般社団法人社会調査協会），丸善出版株式会社（東京）2014; pp 598-601

## 国際看護学

## 4) 英文以外の著書

1. "産前産後ママヘルパー養成講座テキスト1 ママヘルパー編(第1版)"（編集 福澤利江子, 杉本敬子），ニチイ学館（東京）2014
2. "産前産後ママヘルパー養成講座テキスト2 妊娠・出産編(第1版)"（編集 福澤利江子, 杉本敬子），ニチイ学館（東京）2014;
3. "産前産後ママヘルパー養成講座テキスト3 産褥編(第1版)"（編集 福澤利江子, 杉本敬子），ニチイ学館（東京）2014
4. "新生児のお世話ガイドブック(第1版)"（編集 福澤利江子, 杉本敬子），ニチイ学館（東京）2014

## 臨床試験・臨床疫学

### 1) 英文論文

1. Ahmed S, Moore SE, Kippler M, Gardner R, Hawlader MD, Wagatsuma Y, Raqib R, Vahter M. Arsenic exposure and cell-mediated immunity in pre-school children in rural Bangladesh. *Toxicol Sci* 141(1):166-175, 2014
2. Hawlader MD, Ma E, Noguchi E, Itoh M, Arifeen SE, Persson LA, Moore SE, Raqib R, Wagatsuma Y. Ascaris lumbricoids Infection as a Risk Factor for Asthma and Atopy in Rural Bangladeshi Children. *Trop Med Health* 42(2):77-85, 2014
3. Maruo T, Seo Y, Yamada S, Arita T, Ishizu T, Shiga T, Dohi K, Toide H, Furugen A, Inoue K, Daimon M, Kawai H, Tsuruta H, Nishigami K, Yuda S, Ozawa T, Izumi C, Fumikura Y, Wada Y, Doi M, Okada M, Takenaka K, Aonuma K. The Speckle Tracking Imaging for the Assessment of Cardiac Resynchronization Therapy (START) study. *Circ J* doi: 10.1253/circj.CJ-14-0842, 2014
4. Nakata Y, Okada M, Hashimoto K, Harada Y, Sone H, Tanaka K. Weight loss maintenance for 2 years after a 6-month randomised controlled trial comparing education-only and group-based support in Japanese adults. *Obes Facts* 7(6):376-387, 2014
5. Tanaka Y, Isobe K, Ma E, Imai T, Kikumori T, Matsuda T, Maeda Y, Sakurai A, Midorikawa S, Hataya Y, Kato T, Kamide K, Ikeda Y, Okada Y, Adachi M, Yanase T, Takahashi H, Yokoyama C, Arai Y, Hashimoto K, Shimano H, Hara H, Kawakami Y, Takekoshi K. Plasma free metanephrenes in the diagnosis of pheochromocytoma: diagnostic accuracy and strategies for Japanese patients. *Endocr J* 61(7):667-673, 2014
6. Sarker MH, Das SK, Ahmed S, Ferdous F, Das J, Farzana FD, Shahid AS, Shahunja KM, Afrad MH, Malek MA, Chisti MJ, Bardhan PK, Hossain MI, Al Mamun A, Faruque AS. Changing characteristics of rotavirus diarrhea in children younger than five years in urban Bangladesh. *PLoS One* 9(8):e105978, 2014
7. Das SK, Chisti MJ, Afrad MH, Malek MA, Ahmed S, Ferdous F, Farzana FD, Das J, Shahunja KM, Afrose F, Salam MA, Ahmed T, Faruque AS, Baker PJ, Al Mamun A. Gastroenteritis due to typhoidal Salmonella: a decade of observation at an urban and a rural diarrheal disease hospital in Bangladesh. *BMC Infect Dis* 14:435, 2014
8. Ferdous F, Das SK, Ahmed S, Farzana FD, Malek MA, Das J, Latham JR, Faruque AS, Chisti MJ. Diarrhoea in slum children: observation from a large diarrhoeal disease hospital in Dhaka, Bangladesh. *Trop Med Int Health* 19(10):1170-1176, 2014
9. Baker KK, Dil Farzana F, Ferdous F, Ahmed S, Kumar Das S, Faruque AS, Nasrin D, Kotloff KL, Nataro JP, Kolappaswamy K, Levine MM. Association between moderate-to-severe diarrhea in young children in the global enteric multicenter study (GEMS) and types of handwashing materials used by caretakers in Mirzapur, Bangladesh. *Am J Trop Med Hyg* 91(1):181-189, 2014

10. Das SK, Begum D, Ahmed S, Ferdous F, Farzana FD, Chisti MJ, Latham JR, Talukder KA, Rahman MM, Begum YA, Faruque AS, Malek MA, Qadri F, Ahmed T, Alam N. Geographical diversity in seasonality of major diarrhoeal pathogens in Bangladesh observed between 2010 and 2012. *Epidemiol Infect* 142(12):2530-2541, 2014
11. Ferdous F, Dil Farzana F, Ahmed S, Das SK, Malek MA, Das J, Faruque AS, Chisti MJ. Mothers' perception and healthcare seeking behavior of pneumonia children in rural bangladesh. *ISRN Family Med* 2014:690315, 2014

## 社会精神保健学

### 1) 英文論文

1. Nishizawa D, Fukuda K, Kasai S, Ogai Y, Hasegawa J, Sato N, Yamada H, Tanioka F, Sugimura H, Hayashida M, Ikeda K. Association between KCNJ6 (GIRK2) gene polymorphism rs2835859 and post-operative analgesia, pain sensitivity, and nicotine dependence. *J Pharmacol Sci* 126(3):253-263, 2014

### 2) 英文以外の論文

1. 池田朋広, 小池純子, 幸田実, 稲本淳子, 森田展彰. 物質使用障害と精神病性障害を併せ持つ者への地域支援策の検討 薬物依存症リハビリテーション施設への全国調査から. 日本アルコール・薬物医学会雑誌 49(6):340-355, 2014
2. 池田朋広, 小池純子, 森田展彰, 合川勇三, 松本俊彦, 稲本淳子, 岩波明. 措置入院指定病院に入院する違法物質使用障害者の実態調査 退院時における逮捕群と非逮捕群との比較から. 日本社会精神医学雑誌 23(2):112-122, 2014
3. 小池純子, 針間博彦, 宮城純子, 森田展彰, 中谷陽二. 研究と報告 触法精神障害者の長期入院例 社会復帰阻害要因に焦点をあてて. 精神医学 56(11):931-940, 2014
4. 斎藤環. 「開かれた対話」と「人薬」. 家族療法研究 31(1):19, 2014
5. 斎藤環. 【「双極性障害」の真実】 「現代型うつ病」と承認欲求. アディクションと家族 29(4):297-303, 2014
6. 斎藤環. 【フィンランドで効果を上げる驚きの救急対応「オープンダイアローグ」】 オープンダイアローグ(開かれた対話)が統合失調症の治療風景を変える可能性について. 精神看護 17(4):7-18, 2014
7. 斎藤環. 【トラウマという視点から見た精神科臨床】 いじめ被害と PTSD. 精神科治療学 29(5):633-638, 2014
8. 斎藤環. 【ひきこもりからみた思春期の精神医療】 ひきこもりと精神医療・総論. 医学のあゆみ 250(4):243-248, 2014

9. 斎藤環. 【精神障害の長期予後】 不登校・ひきこもりの「長期間を経たその後の状態」について. 臨床精神医学 43(10):1481-1485, 2014
10. 斎藤環. 現代人が抱える依存症. 日本精神保健看護学会誌 23(2):90-105, 2014
11. 須賀明子, 伊藤寿美, 森田展彰, 斎藤環. 思春期世代を教育する教員のDVの知識と予防教育への考え. 思春期学 32(2):265-271, 2014
12. 須賀朋子, 森田展彰, 斎藤環. 中学生・高校生のDVについての知識と考え方の実態. アディクションと家族 29(4):352-359, 2014
13. 須賀朋子, 森田展彰, 斎藤環. 高校生へのDV予防に向けての介入研究. 思春期学 32(4):404-412, 2014
14. 高原恵子, 森田展彰, 大谷保和, 梅野充, 幸田実, 池田朋広, 谷部陽子, 阿部幸枝, 近藤恒夫. 薬物依存症者に対する就労支援に関する研究 薬物依存症回復支援施設に対する全国調査から. 日本アルコール・薬物医学会雑誌 49(2):104-118, 2014
15. 山田昌弘, 斎藤環, 斎藤学. 【「双極性障害」の真実】 医療化する社会の中の人間. アディクションと家族 29(4):328-336, 2014

#### 4) 英文以外の著書

1. 森田展彰. トラウマとメンタルヘルス; "公衆衛生実践キーワード-地域保健活動の今がわかる明日がみえる(第1版)"(編集 島田洋子, 島田美喜), 医学書院(東京) 2014; pp110-111

## 法医学

#### 1) 英文論文

1. Ballantyne KN, Ralf A, Aboukhalid R, Achakzai NM, Anjos MJ, Ayub Q, Balazic J, Ballantyne J, Ballard DJ, Berger B, Bobillo C, Bouabdellah M, Burri H, Capal T, Caratti S, Cardenas J, Cartault F, Carvalho EF, Carvalho M, Cheng B, Coble MD, Comas D, Corach D, D'Amato ME, Davison S, de Knijff P, De Ungria MC, Decorte R, Dobosz T, Dupuy BM, Elmrgnhi S, Gliwinski M, Gomes SC, Grol L, Haas C, Hanson E, Henke J, Henke L, Herrera-Rodriguez F, Hill CR, Holmlund G, Honda K, Immel UD, Inokuchi S, Jobling MA, Kaddura M, Kim JS, Kim SH, Kim W, King TE, Klausriegler E, Kling D, Kovacevic L, Kovatsi L, Krajewski P, Kravchenko S, Larmuseau MH, Lee EY, Lessig R, Livshits LA, Marjanovic D, Minarik M, Mizuno N, Moreira H, Morling N, Mukherjee M, Munier P, Nagaraju J, Neuhuber F, Nie S, Nilasitsataporn P, Nishi T, Oh HH, Olofsson J, Onofri V, Palo JU, Pamjav H, Parson W, Petlach M, Phillips C, Ploski R, Prasad SP, Primorac D, Purnomo GA, Purps J, Rangel-Villalobos H, Rebala K, Rekamnuaychoke B, Gonzalez DR, Robino C, Roewer L, Rosa A, Sajantila A, Sala A, Salvador JM, Sanz P, Schmitt C, Sharma AK, Silva DA, Shin KJ, Sijen T, Sirker M, Sivakova D, Skaro V, Solano-Matamoros C, Souto L, Stenzl V, Sudoyo H, Syndercombe-Court

- D, Tagliabracci A, Taylor D, Tillmar A, Tsybovsky IS, Tyler-Smith C, van der Gaag KJ, Vanek D, Volgyi A, Ward D, Willemse P, Yap EP, Yong RY, Pajnic IZ, Kayser M. Toward male individualization with rapidly mutating y-chromosomal short tandem repeats. *Hum Mutat* 35(8):1021-1032, 2014
2. Honda K. DNA analysis overturns the death sentence of a condemned criminal held in custody for 48 years. *Forensic Sci Int Genet* doi: 10.1016/j.fsigen.2014.11.003, 2014
  3. Purps J, Siegert S, Willuweit S, Nagy M, Alves C, Salazar R, Angustia SM, Santos LH, Anslinger K, Bayer B, Ayub Q, Wei W, Xue Y, Tyler-Smith C, Bafalluy MB, Martinez-Jarreta B, Egyed B, Balitzki B, Tschumi S, Ballard D, Court DS, Barrantes X, Bassler G, Wiest T, Berger B, Niederstatter H, Parson W, Davis C, Budowle B, Burri H, Borer U, Koller C, Carvalho EF, Domingues PM, Chamoun WT, Coble MD, Hill CR, Corach D, Caputo M, D'Amato ME, Davison S, Decorte R, Larmuseau MH, Ottoni C, Rickards O, Lu D, Jiang C, Dobosz T, Jonkisz A, Frank WE, Furac I, Gehrig C, Castella V, Grskovic B, Haas C, Wobst J, Hadzic G, Drobnić K, Honda K., Hou Y, Zhou D, Li Y, Hu S, Chen S, Immel UD, Lessig R, Jakovski Z, Ilievska T, Klann AE, Garcia CC, de Knijff P, Kraaijenbrink T, Kondili A, Miniati P, Vouropoulou M, Kovacevic L, Marjanovic D, Lindner I, Mansour I, Al-Azem M, Andari AE, Marino M, Furfuro S, Locarno L, Martin P, Luque GM, Alonso A, Miranda LS, Moreira H, Mizuno N, Iwashima Y, Neto RS, Nogueira TL, Silva R, Nastainczyk-Wulf M, Edelmann J, Kohl M, Nie S, Wang X, Cheng B, Nunez C, Pancorbo MM, Olofsson JK, Morling N, Onofri V, Tagliabracci A, Pamjav H, Volgyi A, Barany G, Pawlowski R, Maciejewska A, Pelotti S, Pepinski W, Abreu-Glowacka M, Phillips C, Cardenas J, Rey-Gonzalez D, Salas A, Brisighelli F, Capelli C, Toscanini U, Piccinini A, Piglionica M, Baldassarra SL, Ploski R, Konarzewska M, Jastrzebska E, Robino C, Sajantila A, Palo JU, Guevara E, Salvador J, Ungria MC, Rodriguez JJ, Schmidt U, Schlauderer N, Saukko P, Schneider PM, Sirker M, Shin KJ, Oh YN, Skitsa I, Ampati A, Smith TG, Calvit LS, Stenzl V, Capal T, Tillmar A, Nilsson H, Turrina S, De Leo D, Verzeletti A, Cortellini V, Wetton JH, Gwynne GM, Jobling MA, Whittle MR, Sumita DR, Wolanska-Nowak P, Yong RY, Krawczak M, Nothnagel M, Roewer L. A global analysis of Y-chromosomal haplotype diversity for 23 STR loci. *Forensic Sci Int Genet* 12:12-23, 2014
  4. Takaoka E, Miyazaki J, Kimura T, Kojima T, Kawai K, Murata Y, Itoguchi N, Minami Y, Nakamura T, Honda K., Nishiyama H. Concurrent urothelial carcinoma in the renal pelvis of an allograft kidney and native recipient bladder: evidence of donor origin. *Jpn J Clin Oncol* 44(4):366-369, 2014
  5. Yano S, Honda K, Kaminiwa J, Nishi T, Iwabuchi Y, Sugano Y, Kurosu A, Suzuki Y. DNA extraction for short tandem repeat typing from mixed samples using anti-human leukocyte CD45 and ABO blood group antibodies. *Forensic Sci Int Genet* 10:17-22, 2014

## 2) 英文以外の論文

1. 本田克也. DNA鑑定はどこまで正当か(1) DNAによる科学的鑑定法の進歩とその課題(1).

季刊 刑事弁護 78:86-93, 2014

2. 本田克也. DNA鑑定はどこまで正当か(2) DNAによる科学的鑑定法の進歩とその課題(2)  
季刊 刑事弁護 79:172-179, 2014
3. 本田克也. DNA鑑定はどこまで正当か (3) 検出技術の歴史的発展とその原理(1) 季刊 刑事弁護 80:203-211, 2014
4. 本田克也, 矢野志津枝, 菅野幸子. 法医学への入門 (2) 医学生のための法医学原論. 学城 11:135-148, 2014

## 福祉医療学・国際社会医学

### 1) 英文論文

1. Ichikawa M, Nakahara S, Inada H. Impact of mandating a driving lesson for older drivers at license renewal in Japan. *Accid Anal Prev* doi: 10.1016/j.aap.2014.11.015, 2014
2. Nakahara S, Ichikawa M, Nakajima Y. Effects of increasing child restraint use in reducing occupant injuries among children aged 0-5 years in Japan. *Traffic Inj Prev* doi: 10.1080/15389588.2014.897698, 2014
3. Nakahara S, Matsuoka T, Ueno M, Mizushima Y, Ichikawa M, Yokota J. Extremity injuries as predictors of emergency care resource needs among blunt trauma patients in Japan. *Am Surg* 80(2):197-203, 2014
4. Ueki R, Ichikawa M, Hiranuma Y, Naito T, Maeno T, Shibayama T. Health communication method and primary care seeking after screening for early type 2 diabetes in a Japanese healthcare setting. *Diabetology International* 5(2):122-128, 2014
5. Watanabe H, Tanaka N, Inuta T, Saitou H, Yanagi H. Locomotion improvement using a hybrid assistive limb in recovery phase stroke patients: a randomized controlled pilot study. *Arch Phys Med Rehabil* 95(11):2006-2012, 2014

### 2) 英文以外の論文

1. 後藤亮平, 田中直樹, 渡邊大貴, 金森毅繁, 柳久子. 廃用症候群入院患者におけるADL能力の向上に影響する要因の検討. 理学療法科学 29(5):751-758, 2014
2. 坂本晴美, 高田祐, 稲田晴彦, 奥野純子, 柳久子. 介護老人保健施設におけるリハビリテーションの利用者満足度に関連する要因の検討. 日本プライマリ・ケア連合学会誌 37(4):324-332, 2014
3. 内藤幾愛, 斎藤秀之, 柳久子, 田中直樹, 金森毅繁, 池澤和人, 長澤俊郎, 小関迪. リハビリテーション強化型病院の入院部門における理学療法士・作業療法士・言語聴覚士によるインシデントの分析. 医療の質・安全学会誌 9(2):124-131, 2014

4. 高田祐, 藤田好彦, 久保田智洋, 稲田晴彦, 奥野純子, 柳久子. 地域在住高齢者における多重課題条件下での歩行能力と転倒リスク調査との関連性. 理学療法科学 29(2):201-205, 2014
5. 裴麗瑩, 奥野純子, 堀田和司, 深作貴子, 権海善, 柳久子. 老老介護世帯における主介護者の生活の質に関する要因 中国東北部吉林省(朝鮮民族・漢民族)の実態調査から. 日本プライマリ・ケア連合学会誌 37(3):225-232, 2014
6. 藤田好彦, 高田祐, 久保田智洋, 堀田和司, 中村茂美, 奥野純子, 柳久子. 生活活動度計(A-MES)を用いた地域在住虚弱高齢者の生活活動度の検討. 日本プライマリ・ケア連合学会誌 37(3):212-218, 2014

## 保健医療政策学・医療経済学

### 1) 英文論文

1. Hoshi SL, Kondo M, Okubo I. Economic evaluation of vaccination programme of mumps vaccine to the birth cohort in Japan. *Vaccine* 32(33):4189-4197, 2014
2. Kamei K, Konta T, Hirayama A, Suzuki K, Ichikawa K, Fujimoto S, Iseki K, Moriyama T, Yamagata K, Tsuruya K, Kimura K, Narita I, Kondo M, Asahi K, Watanabe T. A slight increase within the normal range of serum uric acid and the decline in renal function: associations in a community-based population. *Nephrol Dial Transplant* 29(12):2286-2292, 2014
3. Kato N, Kondo M, Okubo I, Hasegawa T. Length of hospital stay in Japan 1971-2008: hospital ownership and cost-containment policies. *Health Policy* 115(2-3):180-188, 2014
4. Kayaba M, Kondo M, Honda Y. Characteristics of elderly people living in non-air-conditioned homes. *Environ Health Prev Med* doi: 10.1007/s12199-014-0426-2, 2014
5. Murasawa H, Konno R, Okubo I, Arakawa I. Evaluation of health-related quality of life for hypothesized medical states associated with cervical cancer. *Asian Pac J Cancer Prev* 15(22):9679-9685, 2014
6. Nagai K, Yamagata K, Ohkubo R, Saito C, Asahi K, Iseki K, Kimura K, Moriyama T, Narita I, Fujimoto S, Tsuruya K, Konta T, Kondo M, Watanabe T. Annual decline in estimated glomerular filtration rate is a risk factor for cardiovascular events independent of proteinuria. *Nephrology (Carlton)* 19(9):574-580, 2014
7. Oikawa M, Sonko A, Faye EO, Ndiaye P, Diadhiou M, Kondo M. Assessment of maternal satisfaction with facility-based childbirth care in the rural region of Tambacouda, Senegal. *Afr J Reprod Health* 18(4):95-104, 2014
8. Sato Y, Fujimoto S, Konta T, Iseki K, Moriyama T, Yamagata K, Tsuruya K, Kimura K, Narita I, Kondo M, Asahi K, Kurahashi I, Ohashi Y, Watanabe T. Significance of estimated glomerular filtration rate in predicting brain or heart attacks in obese and non-obese populations. *Clin Exp*

*Nephrol* doi:10.1007/s10157-014-1062-2, 2014

9. Shono A, Kondo M. Parents' preferences for seasonal influenza vaccine for their children in Japan. *Vaccine* 32(39):5071-5076, 2014
10. Shono A, Kondo M. Factors that affect voluntary vaccination of children in Japan. *Vaccine* doi: 10.1016/j.vaccine.2014.12.014, 2014
11. Shono A, Kondo M, Ohmae H, Okubo I. Willingness to pay for public health services in rural Central Java, Indonesia: methodological considerations when using the contingent valuation method. *Soc Sci Med* 110:31-40, 2014
12. Takada M, Ishiguro H, Nagai S, Ohtani S, Kawabata H, Yanagita Y, Hozumi Y, Shimizu C, Takao S, Sato N, Kosaka Y, Sagara Y, Iwata H, Ohno S, Kuroi K, Masuda N, Yamashiro H, Sugimoto M, Kondo M, Naito Y, Sasano H, Inamoto T, Morita S, Toi M. Survival of HER2-positive primary breast cancer patients treated by neoadjuvant chemotherapy plus trastuzumab: a multicenter retrospective observational study (JBCRG-C03 study). *Breast Cancer Res Treat* 145(1):143-153, 2014
13. Terawaki H, Nakayama M, Asahi K, Kakamu T, Hayakawa T, Iseki K, Kimura K, Moriyama T, Yamagata K, Narita I, Fujimoto S, Tsuruya K, Konta T, Kondo M, Kurahashi I, Ohashi Y, Fukushima T, Watanabe T. Comparison of predictive value for first cardiovascular event between Japanese GFR equation and coefficient-modified CKD-EPI equation. *Clin Exp Nephrol* doi: 10.1007/s10157-014-0997-7, 2014
14. Uchida D, Kawarasaki H, Shibagaki Y, Yasuda T, Tominaga N, Watanabe T, Asahi K, Iseki K, Iseki C, Tsuruya K, Yamagata K, Moriyama T, Narita I, Fujimoto S, Konta T, Kondo M, Kasahara M, Kimura K. Underestimating chronic kidney disease by urine dipstick without serum creatinine as a screening tool in the general Japanese population. *Clin Exp Nephrol* doi: 10.1007/s10157-014-1019-5, 2014
15. Wakasugi M, Kazama JJ, Narita I, Iseki K, Moriyama T, Yamagata K, Fujimoto S, Tsuruya K, Asahi K, Konta T, Kimura K, Kondo M, Kurahashi I, Ohashi Y, Watanabe T. Association between combined lifestyle factors and non-restorative sleep in Japan: a cross-sectional study based on a Japanese health database. *PLoS One* 9(9):e108718, 2014
16. Yano Y, Fujimoto S, Sato Y, Konta T, Iseki K, Iseki C, Moriyama T, Yamagata K, Tsuruya K, Narita I, Kondo M, Kimura K, Asahi K, Kurahashi I, Ohashi Y, Watanabe T. New-onset hypertension and risk for chronic kidney disease in the Japanese general population. *J Hypertens* 32(12):2371-2377, 2014

## 2) 英文以外の論文

1. 小坂雅人, 近藤正英, 大久保一郎. がん検診受診率の向上が死亡保険金に与える影響. 日本保険医学会誌 112(1):30-42, 2014
2. 水口恵美子, 中澤浩一, 萱場桃子, 近藤正英, 本田靖. 夏季における高齢者の冷房装置使用の

調査:2010-2011 の比較. 日本生気象学会雑誌 51(1):9-21, 2014

3. 宮下裕美子, 田宮菜奈子, 本澤巳代子, 間辺利江, 柏木志保, モゲス.アブ.ギルマ, 大久保一郎, 田中洋子, 松田ひとみ. 筑波大学グローバルエイジングセンターの活動 地球規模の高齢社会に向けた国際的・学際的取り組み. 高齢者ケアリング学研究会誌 4(2):33-39, 2014
4. 村澤秀樹, 大久保一郎, 荒川一郎. 子宮頸がん検診へのヒトパピローマウイルス DNA 検査導入に関する費用対効果分析. 日本予防医学会雑誌 9(2):83-91, 2014

3) 英文著書

1. Honda Y, Kondo M, McGregor G, Kim H, Guo YL, Hales S, Kovats S. 2. Heat-related mortality; in "Quantitative risk assessment of the effects of climate change on selected causes of death, 2030s and 2050s (1st edition)" (edited by Hales S, Kovats S, Lloyd S, Campbell-Lendrum D), World Health Organization (Genava) 2014; pp17-25

4) 英文以外の著書

1. 近藤正英. 第4章 管理・治療. 医療経済; "最新医学別冊新しい診断と治療のABC11CKD (慢性腎臓病) 慢性腎不全(改訂第2版)" (編集 佐々木成), 最新医学社(大阪) 2014; pp227-234